

## 21世紀 IT革命 いよいよ始まる

ブロードバンド・モバイル社会実現への貢献

### ネットワーク革命の進展

新世紀の扉が開いた、いよいよ2世紀のIT革命が始まる。過ぎた前世紀最後の昨年末には、我が国ではITの恩恵を全ての国民が最大限に享受できる知識創発型社会の実現に向けた、IT基本法(高度情報通信ネットワーク社会形成基本法)が成立し、IT革命推進の基本理念や推進体制が定まった。また、BSデジタル放送も開始され、見るテレビから使うテレビに変身して情報のポータルが家庭にも出現することとなった。

勿論のこと、革命の嵐は日本のみならず世界レベルで進展している。情報通信が牽引する社会の変革は、産業構造や政治経済に止まらず、社会活動、市民生活、芸術とあらゆる領域においてグローバルな変革を生みつつある。特に破竹の勢いで増殖を続けるインターネットに代表されるネットワーク革命の進展は、まるで巨大な怪物が猛烈な勢いで進むが如く世界を席卷してお

り、間もなく2世紀の初頭に全てのネットワークがシームレスに接続されたIPネットワーク社会が出現することを予感させる。

### YRPへの期待と課題

到来が近い、情報化が著しく進展するIPネットワーク社会では、モビリティ、携帯端末への高機能化の要求がますます加速増大する。今年日本ではIMT-2000のサービスが世界に先駆けて開始されるが、第3世代の確実な成功と、第4世代に向けたYRPの果敢なチャレンジが期待される所以である。

今年の当初から5月まで、YRPにおいて電波産業会(ARIB)によるMMACの実証実験が行なわれる。3世代の実用化に続きYRPの研究開発は4世代に向けて、ITS、成層圏プラットフォーム、ミリ波多重伝送、ROF、MMAC等の研究課題がいよいよ佳境に入って行くことになる。郵政省においても昨年末に、これまでのMMAC基礎技術

研究の成果を踏まえて、ITUへ提出の我が国の提案創りを目指して、第4世代移動通信システムの基本コンセプトについて電気通信技術審議会に諮問を行ない、本年6月には概念が明らかにされる予定となっている。

YRPに与えられたテーマのハードルは全て非常に高い。然し、寄せられる期待と意義はそれに増して高い。

YRPが絶え間ない技術革新の要求に確実に応え続けながら、2世紀に創造的発展を続けることが強く望まれる。

### 拡大と幅を広げるYRPの研究環境

現在、NTTドコモ研究所の隣接地では、新たな研究棟の増設工事でタワークレーンが力強い唸りを上げている。YRPは発足して僅か3年目であるが、既に床面積の倍増が必要となるほど拡大のピッチは早い。また、昨年12月には新たな別の研究棟の起工式が行なわれた。新研究棟は延べ床面積約4千平米のアプリ

ケーションソフト開発を中心とするベンチャーの育成拠点となるYRPベンチャー棟(仮称)である。

IT革命はハード面だけの技術が発達しても達成しない、アプリケーションソフトが高度化して一般に普及してこそ達成される。また、ベンチャーが大企業では生み出し難い独自のアルゴリズムに基づき、ゲリラ的に開発するデバイス等もYRPに既進出企業の研究者に刺激的な活を与え、研究を活性化させることが期待できる。

YRPベンチャー棟の完成は今年の7月であるが、ベンチャーの他に大学の研究者の入居も予定されている。新たなパートナーとして活力溢れるベンチャーとアカデミアから参加する研究者がYRPに加わり、伝統的な大企業と相互に補完し合い融合することで、YRPの研究活動は新たな面的広がりを加えて創造的発展に向かって力強い前進を開始するであろう。



## 新世紀 ご挨拶



総務省  
大臣官房技術総括審議官

### 田中 征治

平成 13年の新しい年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。皆様方には日頃より情報通信行政に多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2世紀を迎えた現在、情報通信技術による社会構造の変革、いわゆる「IT革命」が世界的な規模で生じていることは皆様ご承知のとおりです。

総務省におきましても、このIT革命に取り組むため、全ての国民がデジタル情報を基盤とした情報・知識を共有し、自由かつ安全に情報を交換することが可能なIT社会の実現に向け、この基盤となる超高速インターネット網の整備及びそのための研究開発を推進しているところです。横須賀リサーチパークにおきましては、通信総合研究所横須賀無線研究センターが、産学官連携による新たな研究戦略により、世界の中核的研究拠点を目指して研究開発を行なっております。

横須賀リサーチパークは、次世代の移動通信に関する研究開発のメッカとして、多くの研究機関が集積し、ますます活況を呈しておりますが、これも関係者の皆様方のご尽力のたまものと、深く敬意を表する次第です。今後も、産学官の連携、国際共同研究、研究交流、人材育成等の活動において、先導的な役割を担われることを期待致しております。

最後に、私どもは本年より、郵政省、自治省、総務庁が統合し「総務省」として新たなスタートを切りました。さらに今年4月からは、通信総合研究所が独立行政法人として生まれかわることになります。これからの1年は行政改革の成果が問われる非常に重要な時期になると考えている次第です。今後も総務省として、更なる情報通信行政の推進に努めてまいりますので、皆様方の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげ、新年の挨拶とさせていただきます。



横須賀市長

### 沢田 秀男

いよいよ2世紀が幕を開けました。いま、IT革命に代表される歴史の転換期に、私たちは、次の世代のみならず、遙か将来の子孫の運命をも左右する大きな役割を果たしつつあることに身の引き締まる思いがいたします。

本市は、本年4月に準政令指定都市ともいえる『中核市』へと移行します。これにより、福祉の分野をはじめとして、今まで以上に市民のニーズに迅速かつきめ細やかに対応するとともに、個性ある地域づくりを展開できるようになります。

現在、国を挙げてIT革命に取り組んでいます。このような中で、本市は、全国の自治体としてはトップレベルのIT化を進めており、近未来を的確に見据えた、インターネットによる高度な市民サービスを提供する『電子市役所』の実

現に取り組んでおります。

産業構造においても、横須賀リサーチパーク(YRP)が情報通信技術の世界的研究開発拠点として国内外から高い評価を得ており、横須賀が人類の生活の革新に貢献できるのもそう遠いことではないと実感しております。

本市の都市づくりは、なお多くの課題を抱えております。「変革の勇気」と「創造の知恵」を持ってそれらに果敢に対処し、「住んで誇りに思うまち」の実現に向けて懸命の努力をする決意であります。

本年が皆様にとり輝かしい年となりますよう心からお祈り申し上げます。



京浜急行電鉄株式会社  
取締役社長

### 小谷 昌

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、YRPはオープンからはや3年が経過いたしました。この間、ご進いただいた国や企業の皆様のため研究開発活動により、YRPは国際的にも情報通信技術の一大研究拠点として高い評価を頂くようになりました。皆様方の熱意に溢れた研究活動の成果に、目をみはる思いでございます。

2世紀を迎えたYRPでは、本年7月にはYRPベンチャー棟をオープンし、多くの若い研究者の方々为世界へ向けて羽ばたいていけるよう、既にご進出いただいている企業との交流促進や業務面でのサポート等の支援を行ってまいります。更に、平成14年4月にはNTTドコモYRPオフィス棟が開業するほか、既にご進出いただいている企業の新た

な大型独立研究所の開業も計画されています。当社では今後も、快適な研究開発環境をご提供できますよう、生活面・交通面を更に充実してまいります。また今春には、東京から三浦半島まで、当社線路沿いに光ファイバーケーブルの敷設が完了します。YRPの皆様にも、高速大容量の通信手段として低料金でご利用いただくことが可能となります。

時はまさにIT革命の時代。当社も駅を拠点に、ITを利用した様々な新しいサービスを沿線にお住まいの方々に提供してまいりたいと考えております。今後ともYRPの皆様には、ご指導・ご鞭撻を賜りたく、宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、2世紀の幕開けの本年がYRP関係の皆様にとってすばらしい年になることを祈念するとともに、YRPの益々の発展を願い、新年の挨拶とさせていただきます。

## 新世紀 ご挨拶

新世紀の新年あけましておめでとうございます。

ご存知の通り、本年1月、「IT基本法」が施行されて日本は高度情報通信ネットワーク社会の実現に向けて大きく踏み出す事となりました。21世紀における日本社会の発展は、ITによる社会変革の如何に大きく左右されるとして、変革の原動力となる情報技術の研究開発が強力に推進されようとしております。IT革命を支える最重要技術の一つに、今日発達の著しい移動通信技術が挙げられておりますが、YRPはまさしくその移動通信技術の国際的な研究拠点として、ますますその活動を活発化しております。

2世紀初頭における、横須賀リサーチパークに与えられた課題と期待は大きく、現在進行中の研究プロジェクトの他に、さらに今後新たな課題への挑戦が求められることは必須でありませんが、それを支えるには、産学官連携強化、国際交流の促進、人材育成等に尚一層の努力を傾注する必要があります。

オープンから3年が経過し、YRPへの国内外からの注目と期待はますます高まりつつあり

新世紀の幕開けに当りご挨拶を申し上げます。今日のIT技術の飛躍的進化は、経済、社会、文化のあらゆる面に大きく影響を及ぼして変化と発展を促しております。グローバル化がますます進展の速度を速めると同時に、IT技術の発展は産業に強い衝撃を与えて構造の変革を迫り、社会経済発展の新たな原動力となりつつあります。また、情報と知識の創造及びその流通と共有化の進展は、我々の社会生活にも大きな変化をもたらし、多様で新しい価値を創造しております。

18世紀末に始まった、工業生産力を高めて社会経済を発展させた産業革命にも匹敵する新たな「IT革命」の進展が、この2世紀の幕開けと共に本格化して、社会はこれまで創り上げて来た工業社会から知的集約型社会へと転換するものと考えます。

新世紀の社会に大きくパラダイムシフトを引き起こすIT技術の高度化、中でも、モビリティとインターネットの融合は21世紀初頭により深く結合を強めて、社会の進化と発展を牽引する技術としてその発達には大きな期待が寄せられております。正に2世紀の開幕は、モバ

ます。今後もAPT事業への国際協力など、アジア・太平洋諸国を始めとする、世界諸国との交流を広めるとともに、提携を進めているデンマーク国のNOVIリサーチパーク、日本の京都リサーチパークや中央コリドー推進協議会等との関係をより深めてまいります。

推進協会は、YRP全体の計画立案とその推進、研究機関の誘致と広報等を本来任務としていますが、本年は特に主要な活動の一つとして、「YRPベンチャー棟」の竣工に併せてベンチャーインキュベーション事業の取り組みを開始します。「YRPベンチャー棟」には、ベンチャー企業のみならず国内外の大学研究機関も誘致する予定であります。既進出の大手企業の研究機関と新たにYRPに誘致するベンチャー企業や大学研究機関の連携と交流はYRPに新たな創造的広がりを与えて、21世紀の情報社会構築への貢献を目指したYRPの研究活動に一段の活性化を与えるものと期待しております。

この記念すべき年が皆様に実り多い年となる事を祈念して新年のご挨拶といたします。

イル通信技術の開発研究をミッションとして創設された横須賀リサーチパーク(YRP)の更なる飛躍へのスタートでもあります。

YRPの活動は着実な成果を創出すると共に今や世界規模へと広がり世界との連帯を強めつつあります。

YRPで誕生した国際学会 WPMC (Wireless Personal Multimedia Communications) は、内容・規模共に急成長を遂げて、昨年バンコクで開催の第3回シンポジウムは驚異的とも評価された高まりを見せ、国内外のサイエンスパークとの業務提携がNOVI(デンマーク)、KR P(京都)などと締結されるなど、国際化は一層の進展を見せております。

研究の成果においても、YRPで開発されたIMT-2000が世界に先駆けて本年5月にサービス開始を予定するなど、確実に成果を重ねつつあります。

新世紀においては、更なる創造に向けて2世紀の社会が要求するIT革命の新たな課題に皆さんと共に挑戦を行い、YRPの発展に尽くす所存であります。

宜しく願いを申し上げます。



横須賀リサーチパーク  
推進協会会長

齋 昭 男



横須賀リサーチパーク  
研究開発協議会会長  
国立情報学研究所教授

羽 鳥 光 俊



# 世界に広がるYRPの連帯

Message from the World



## APT : New Year's Greetings

### Jong-Soon Lee

Executive Director  
Asia-Pacific Telecommunity



As APT welcome the start of 3rd Decades of its service to the Telecommunity in the Asia-Pacific, let us reminisce this moment the new set of Principles and Priorities for the year 2000-2002 adopted by the last General Assembly and Management Committee Session. The core and priority programs have been identified as "Regional Co-ordination Platform", "Enhancement of Standardization Activities" and "Sustainable Transfer of Technology and Human Resources Development". The underlying theme of the APT programs and activities is to increase with more focus and objective specific and to increase productivity, a greater use of outsourcing resources within the region and a move to increased virtual networking among the members.

Last year Management Committee, APT also decided the direction of all APT activities. Since the pace of changes in the field of telecommunication is faster as never before, the sector becomes more complex. More players are involved and issues become global. The inevitable events require APT to adopt changes that the government as well as private sector members needs. Even in uncharted water, APT is embarking on the reform and re-structuring in order to reach some understanding on the need of the constitutional change.

APT needs to adjust our activities to new requirements requested by members and taking in hand various activities, which harmonize the views of the region and present them at international fora. As this case, APT embarked on the successful holding of the Asia-Pacific Summit on the Information Society in cooperation with member countries and the host. The Summit at Tokyo stressed the need to recognize ICT as basic means for accelerating social/economic development and bridge the digital gap. The rapid change in the capacity and applications for information technologies and the complex social and policy issues raised have resulted in formulating a proposal of the Asia-Pacific region thru APT for the Global Information Summit by the United Nations to be held in 2003 at Geneva.

Thus, the potential of APT in leading the Telecommunity in the regional and international level and to accelerate the development of the global information infrastructure certainly demonstrated its crucial role in leveling the playing fields.

I look forward to seeing you all to actively participate in our activities in the coming year. In the spirit of this New Year's season, I earnestly hope that your organization and other affiliates up there could join us in APT as one big family. "Divided We Fall, Together We Stand".

APT (Asia-Pacific Telecommunity)は、1979年5月にアジア・太平洋地域の電気通信の開発促進および地域電気通信網の整備拡充を目的として設立された政府間レベルの国際団体で、31ヶ国の加盟国の他に、準加盟国：4地域、民間企業87社が加入している（昨年11月現在）。本部はバンコクに置かれていて Jong-Soon Lee 局長以下のスタッフが執務している。YRPではAPTが派遣する研修員の技術講習を引き受けて地域の人材育成に協力するなど関係を深めている。

## 急成長するWPMC

### 国際学会「WPMC」の急速な発展

YRPの誕生と同時期に発足した国際学会WPMC (Wireless Personal Multimedia Communications)が急成長を遂げつつある。この学会は、中心人物に今井秀樹教授(東京大学)、Ramjee Prasad教授(Aalborg University, Denmark)、Gordon L. Stuber教授(Georgia Institute of Technology, USA)やその他の日欧米の著名なモバイル通信学者を多数網羅して運営されている、現在注目の国際学会で、YRPの知名度向上にも大きく貢献しているが、その発足と今日の成長は前のYRP研究開発協議会代

表幹事の大森慎吾博士(CRL)の奔走に負うところが大きい。

学会では、世界の優れた研究成果を集めて年1回、郵政省通信総合研究所と横須賀リサーチパーク研究開発協議会の共催で国際シンポジウムを開催しているが、昨年11月のタイのバンコクにおける第3回のシンポジウム「WPMC'00」は、有料参加者約300名に、招待者と学生の参加者約200名を加えて、盛大に行なわれるまでに急成長を遂げるに至った。初回のYRP、第2回のアムステルダムと開催が続くに連れて、



参加研究者の数、論文の質共に目覚ましい発展を見せ、バンコクでは初の優秀論文賞が6人に対して授与された。ドコモやノキアなど有力企業のトップも参加する産学官のこのシンポジウムは、本来は日欧で交互に開催の予定であったものが、ユニークさと質の高さから評判を呼び、各国からの招聘が相次ぎ、バンコクに続いて、200年9月

に第4回をオルボー市(デンマーク)、第5回を2002年にアメリカでの開催が既に決定している。

モバイル通信の有力な企業や官・学の研究機関40が集積する、世界でも稀有な国際リサーチパークYRPで誕生した「WPMC」は、今後YRPの研究の発展と共にますます隆盛を続ける事であろう。

## 「YRPベンチャー棟(仮称)」今夏にオープン

京浜急行電鉄はベンチャー企業を中心に、その他情報通信関連の研究機関も幅広く入居を予定した研究開発賃貸ビル「YRPベンチャー棟(仮称)」の建設を開始した。

このベンチャー棟は、NTTドコモR&Dセンターの前に建設されるもので、域内の他の研究機関との交流には最適の場所に立地しており、本年の7月から入居が開始される。

研究開発室は、ベンチャーの利用し易いブース形オフィスや少人数用のオフィスその他に対応の自在な大部屋など、バリエーションに富む

ものが用意され、また、サーバールームや高速情報通信のインフラが導入されるなど、研究開発支援の環境も整備される。

このベンチャー棟には、ニッチなマーケットを狙ったアプリケーションソフトの開発に優れるベンチャー企業の他に基礎研究等に取り組む大学研究機関も誘致される予定である。

ベンチャーや大学の研究機関がYRPに加わることで、YRPに既進出の大手企業研究機関との研究交流や事業面での提携などが進むことが期待されており、YRP



<完成予想図イメージ>

の研究の幅を広げて更なる活性化に大きな役割を果たすものと思われる。

入居するベンチャー企業のインキュベーション事業は、横須賀リサーチパーク推進協会が中心となり、インセンティブで様々な計画を現在立案中である。

### YRPベンチャー棟(仮称)の概要

建設場所  
横須賀市光の丘381番27  
構造規模  
(鉄骨造、地上4階建)  
延床面積 / 4,008㎡  
貸室  
計5室  
最小貸室 5㎡  
最大貸室 449㎡  
入居開始  
200年7月

# 二十一世紀社会の バックボーンを創る 進展する重要研究プロジェクト

コンピュータネットワークの発達と携帯電話やインターネットの爆発的な普及は、通信量の激増を招き、近い将来にスループットの低下が深刻な問題となるが、その解決に挑む重要研究プロジェクトがYRPに存在する。2世紀の情報社会のバックボーンとなる、超高速ネットワークの実現を目指す「成層圏プラットフォーム」の研究プロジェクトである。

また、通信・放送機構(TAO)と郵政省通信総合研究所(CRL)や民間企業2社が参加した共同研究グループで、人、車、自然が共生でき、誰もが自由にモビリティの利便を享受できる、本格的なモバイルコミュニケーション実現に向けたITS(Intelligent Transport Systems)の研究もYRPで進行中である。

何れも、2世紀の新たな産業と情報化の構築を担う重要プロジェクトである。

## 次世代高速ネットワーク 「成層圏プラットフォーム」の研究

成層圏プラットフォームの研究は、科学技術庁と郵政省が連携して推進する国家プロジェクトで、YRPでは通信ミッションの基盤技術研究と実証実験に向けてのシステム開発を郵政省通信総合研究所(CRL)と通信・放送機構(TAO)が合同で進めている。

成層圏のプロジェクトはフィージビリティ・スタディを既に終えており、その成果として、今だ人類が打ち上げたことの無い高空20kmの成層圏に、全長245m、重量32.4トンの巨大な飛行船を30m/sの風速に耐えて、静止滞空させて高速大容量通信のプラットフォームを構築する概念設計が完了している。

このプロジェクトは運用に必

要な高効率太陽電源と再生型燃料電池、超軽量で高強度高分子膜材、プラットフォームの動揺を補償するマルチビームのデジタルビームフォーミングアンテナや、高空気象条件の解析と予測技術の確立など、既存技術では解決されない技術課題が山積する中で、数年後の実証機打ち上げを目指して研究が鋭意進められている。

衛星系や地上系に比べて、伝搬損失がはるかに少なく、マルチパス等の影響の少ない、広いエリアをカバーする特長を持つ成層圏プラットフォームが実現した暁には、プラットフォーム間は空間光通信、地上とは準ミリ波やミリ波帯で、成層圏と地上で構成されるギガビット(Gbps)クラスの新



しい次世代高速無線通信ネットワークが出現して、2世紀の情報社会を支えるバックボーンネットワークとなる。然も、地上に構築する光ファイバー網よりは一桁以上の低コストでの実現も期待される。

ロマンを感じる壮大な規模の本研究については、既に2回の国際シンポジウムが開かれて研究の成果が発表されており、世界からの注目を集めている。

## 21世紀のリーディング産業として 期待される「ITS」

モーターレーゼーションが進化した現在、車は今や人間の生活に欠かせないものであるが、交通事故・渋滞や地球環境問題など、その弊害も問題として大きくなっている。それら弊害を克服すると共に、これまでは単なる移動手段であった車を高度に情報化することで、モバイルオフィスあるいはモバイルホームへと進化させるのが、YRPのITS(Intelligent Transport System)研究である。既に、高速道路の料金自動徴収システムなど、日本や欧米の先進国で部分的には実用が始まっているが、YRPでの研究は更にアドバンスしたもので、インターネットを始め、既存の情報通信手段を全て包括した上に、更に新しいサービスを重ねる統

合的な理想のITSを狙うもので、欧米の方向とは其の点で異なる。正に、本研究はインテリジェントなビークルコミュニケーションシステムの実現を目指す挑戦的な研究である。

研究を大まかに分類すれば、「ワイヤレスエージェント技術」「光無線融合通信システム技術」「ワイヤレスマルチモード端末技術」の3分野で、産学官の協調で進められている。

「ワイヤレスエージェント技術」の研究は、移動する車の通信トラヒックの大幅な空間的、時間的変動に対応して、基地局が広範囲に移動する車の位置や、ドライバーが要求している情報や通信手段を常に把握して、最適な通信路や情報の種類、通信の

形式を自動選択して提供する技術の開発であり、「光無線融合通信システム技術」の研究は、光と無線を用いた効率的な多重通信技術で、マルチメディア・レーン及びステーションと呼ばれる、道路沿いやスポットの場所に設備する、広帯域・大容量の情報通信システムの研究である。この技術は構築と運用に最適な、ITS実現の鍵を握る重要な要素技術である。残る「ワイヤレスマルチモード端末技術」の研究は、サービス毎に通信方式の異なる、様々で多数の通信端末を車に装備することなく、単一の通信端末機に電波でソフトウェアをダウンロードすることで、デジタル放送、携帯電話、GPS、VIC Sや、今後出現するその他の新サービスとの通信を一つの端末で可能にする、SDR(Software Defined Radio)対応の万能通信端末の研究である。

YRPの地で進行する産学官連携のITS研究は、安全で快適な車内空間をもつインテリジェントな車と良好な道路交通環境の実現のみならず、2世紀のリーディング産業として5年後には約2兆円の市場と33万人の雇用を生む2世紀の経済発展を担う新産業の創出原動力としても期待が大きい。

# 趣味 ▶▶ 悠 YOUR 遊

趣味やおすすめ情報などを毎回3名の方に語っていただきます。  
あの人の、この人の、意外な一面が見えるかも!?

松下通信工業株式会社

代表取締役専務 倉本 實さん

## 古社寺・旧跡巡り

生来飽き性の私は、若い頃から雑多なことに手を出しながらも、これと言った趣味も持てずに過ごしてきました。

最近の趣味らしきものの一つは、「古社寺・旧跡巡り」です。コースは、各地の札所霊場の寺と延喜式内神社を順次巡るのを基本に、思い当たりの寺社、歴史街道と町並み、芭蕉や山頭火の足跡（仏）塔、石仏、庭園、巨樹、滝、名水、水車、等々の物見遊山を加えます。カメラは持たず、山岳地の狭い悪路にも分け入り易い小型のポンコツ車で出掛けます。各種の案内書や地図とカーナビを頼りに、その日の宿の確保さえ忘れて探訪先を追っている時は心身共に真白です。他方、転社を機に新職場の皆さんの強い勧めを受けて、昨年末からゴルフを始めました。歳とつて始めた遊びは凝る傾向があると言われますが、運動神経の鈍い私にその心配はなさそうです。むしろ、連休日が分断されて前述の物見遊山に影響するのが悩みです。

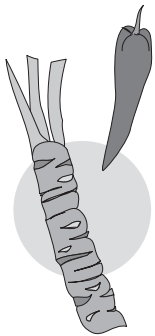
(株)NTTドコモワイヤレス研究所

所長 室田 和昭さん

## 『わさびの香り』

もしこの世にわさびがなかったら生きる喜びは半減である、というほど私は刺激物が好きである。洋からし、唐からし、豆板醤胡椒、タバスコなどなど、これまでに通常人の5倍は摂取したのではないか。防腐や殺菌目的にも使われることも多いのだから人間の健康によいはずもないとも思っが、こればかりはやめられない。

ところで辛さのものは油成分なのだそうである。わさびの根茎の組成に油は関りがあるように思えないのだがと百科事典をひくと、すりおろす際に壊れた細胞中の酵素による加水分解が関係しているらしい。確かに、わさびをそのままかじってもあまり辛くはないように思う。さて、加水分解とは何だったか、また別項目を調べねばと面倒なことになってきた。しかし、そんなことはどうでもよい。芳しい自然の恵みに感謝しつつ、21世紀、今日も刺身がうまい。



(株)オプトウエア研究所

取締役 結城 主央己さん

## 横須賀の魚あれこれ

僕は横須賀が好きだ。海が良いし、魚が旨い。昭和47年に電々の研究所が出来て、はじめてこの地に来た。一人では怖いので仲間と冒険を求めて通った日本語の無い街《どぶ板通り》は過去の思い出となってしまった。一方、当時と変わらぬ顔と心で迎えてくれる赤提灯等も何件があり、くつろいだ会話と旬の地魚に思わず長居してしまうこともある。

横須賀で美味しい魚と言ったら、本マグロのころ、うまづらはぎの肝（生け簀のある店でない）と味わえない）、皮はぎの刺身肝あえ、松葉かれいの刺身、しめ松輪さば、あおりいかの刺身、はこぶくのホイール焼き、赤目の刺身（地とれる赤い目をしたぶぐ）、あかざえびの刺身（相模湾深海に棲息）、など書ききれないほどある。白みる貝などは一度自分で料理したら思わず笑ってしまう風体であるが、食べて美味しい。くつろいだ会話に旨い魚とビール、昭和47年より体重が13kg増えてしまった。

# 食

## INFORMATION

日頃 YRP 関係者がお世話になると同時に楽しみもしている YRP 内のレストラン。各店の味自慢をご紹介します。

### カフェレストラン ローゼテリア



豪華なパーティ料理から、残業時の軽い夕食まで四季折々に合わせて変化させる幅広いメニュー。研究者の体調維持に配慮してディッシュ毎にカロリーを表示、特製のパンも美味しくください。

### 焼き鳥 鳥公



なんとと言っても選び抜いた素材の良さ。季節により、横須賀では中々お目にかかれない、北海道から直送の旬の食材も使用しています。

### フランスレストラン ラ・ルーブル



新鮮な三浦の海の素材を使用した小粋な本格的フランス料理と厳選したワイン。水辺公園を借景にした瀟洒な雰囲気の中でちょっとお洒落な食事をどうぞ。

### 蕎麦と懐石 うちくら



厳選した材料で作るバリエーション豊富な蕎麦料理と蕎麦を見事に昇華させた当店創作の蕎麦懐石料理。和と洋が調和する粋な造りの店内ではワインも楽しめます。

### 中華レストラン 光龍



スープには拘りを持っている。吟味した素材と手間を掛けたスープに平打ちの麺が良く絡む絶妙の坦々麺が当店の売り物。他にも種類の豊富な一品料理を用意。

# 遊

## INFORMATION

### かるうと山古墳

ご存知でしょうか YRP に保存されている古墳時代の遺跡があることを。7世紀前半頃に三浦半島の支配者が葬られたと推測される古墳からは、当時の最先端技術であった金メッキで造られた副葬品の金銅製品が出土して、横須賀市の博物館に保存されています。また時が過ぎて千数百年の後に、YRP の遺跡から 2 世紀最先端技術の「移動情報端末」が発掘されて話題となるかも知れません。



# 知

## INFORMATION

### 四ッ田稲荷の由緒

YRP のメイン通りの傍らに鎮座します四ッ田稲荷は、幕末から明治の初期頃に京都伏見稲荷大社から勧請して祭られた。現在の YRP の町名は「光の丘」であるが、開発造成前は「長沢字四ッ田」と呼ばれており、その地名が稲荷様の名称となっている。祠を守護するように寄り添う大樹と共に昔のままに残されて、現在も 9 軒の地元の古くからの家々により手厚く祭られている。



### ライオン様の由来

昨年 8 月、YRP に忽然と現れたライオン像の由来を調査したところ意外なことが判明した。何と、このライオン像は終戦直後の皇族内閣で首班を務められた東久邇稔彦宮様の私邸跡から移設されたものであった。像の台座には「昭和 6 年 1 1 月、岡崎石彫研究会謹製」と刻まれており、愛知県で制作されて宮様に献上されたものと想像もできるが、真偽のほどは確かめようが無い。由来を知ればなんとなくライオン様は高貴なお姿に見えますか？



## 予定イベント

(詳しくは、YRP のホームページ <http://www.yrp.co.jp> をご覧ください)

- 2月 20日
- ・ BRAIN ワークショップ  
2月 28日 ~ 3月 9日
- ・ APT 次世代移動体通信技術研修  
3月 3日 ~ 4日
- ・ 最先端の情報通信フェア 2001  
3月 5日 ~ 6日
- ・ ミリ波シンポジウム  
(YRP テレコムサミット)  
3月 7日 ~ 9日
- ・ 電子情報学会移動通信  
ワークショップ  
3月 22日 ~ 23日
- ・ モバイルベンチャーメッセ  
(日経 B P 社)  
4月 (予定)
- ・ 中国、韓国、香港、アクティ  
ビティ調査  
5月 (予定)
- ・ APT 次世代移動体通信技術  
研修 (於: 韓国)  
6月 (予定)
- ・ YRP 移動体通信産学官交流  
シンポジウム  
6月 (予定)
- ・ 第 4 世代移動体通信セミナー

## BOOK INFO

### 情報センター便り



YRP 情報センターの蔵書は、YRP の研究者向けの専門図書館として移動体通信関連の図書に特化して、専門図書や専門雑誌、学会報告、標準化資料などを収蔵しております。購入希望の書籍があれば検討しますので、ご希望をお聞かせください。また、皆様方からの図書寄贈も大歓迎致します。

【編集・発行】 横須賀リサーチパーク推進協会  
〒 239-0847 横須賀市光の丘 5 TEL: 0468-40-4100 FAX: 0468-40-4101  
横須賀リサーチパーク研究開発協議会  
〒 239-0847 横須賀市光の丘 3-4 TEL: 0468-47-5008 FAX: 0468-47-5010  
(株)横須賀テレコムリサーチパーク  
〒 239-0847 横須賀市光の丘 3-4 TEL: 0468-47-5000 FAX: 0468-47-5010

<http://www.yrp.co.jp>